

## 北陸の祐天名号塔

滝本 やすし

祐天上人は寛永十四年（一六三七）陸奥国磐城郡仁井田（現在の福島県いわき市）に生まれ、正徳元年より芝の増上寺三十六世を務め、正徳四年に隠居、享保三年（一七一八）に入寂された。明蓮社頭普愚心。

享保三年、弟子の祐海により目黒に祐天の御影堂が建てられ、祐天を開山として自らは二世となった。享保七年、徳川吉宗の命により明頭山祐天寺となった。享保四年作の祐天上人坐像が祐天寺の本尊として祀られている。

祐天書名号の書体は、相撲の根岸流、歌舞伎の勘亭流や寄席の橋流に代表される「江戸文字」と呼ばれる太く力強い書体に近いものが多い。しかし祐天の書には細い文字のものや、草書体のもものみられる。名号塔においては、署名・花押等の入っていないものには特に注意を要する。

祐天が北陸地方に訪れた記録はみられないが、祐天書の名号が刻まれた石塔がいくつかみられる。富山県では九基、石川県では二十三基、福井県では七基確認している。これらは一般墓標を合わせた数である。また同時に確認している名号書についても報告しておきたい。



01 祐天名号書  
長野市智香寺念佛道場

### 02 黒部市生地 光明寺跡

十数年前に廃寺となった光明寺址に建てられている。花崗岩製の自然石で、中央に大きく祐天書の名号が、その左右に「湊川」「戸岩碑」が刻まれている。祐天寺研究室に報告したところ、祐天の名号を記した石塔で力士の名が刻まれているのは初めてのことであった。明治二十年（一八八七）に建てられている。

また光明寺の仏像等は、長野市の智香寺念佛道場に移されているということと昨年訪問したところ、これらの中に祐天名号書一幅を確認した。



### 03 04 魚津市諏訪町 大泉寺 名号書二幅

私はまだ確認していないが、祐天名号書を二幅所蔵されているそうである。一幅は布に書かれたもので、もう一幅は一般的にみられる祐天の書体と異なっているが、これも祐天書とのことである。

### 05 06 富山市梅沢三丁目 来迎寺墓地 二基

祐天寺研究室よりご教示をいただいたもので、墓地内に同じ形態の墓標が二基並んで建てられている。いずれも祐天の早書き名号が刻まれており、署名・花押も入れられている。二基共に明治元年（一八六八）の銘があるが、石材が異なるのはどちらか一方が作り直されたのだろうか。



**07 富山市本町 大町観音堂**

富山市の平井一雄氏に案内をしていただいた。観音堂前に四面に名号が刻まれた石塔が建てられている。そのうちの一面に刻まれている名号が、祐天書の写しとみられる。延享三年（一七四六）の銘がみられる。

**08 富山市東猪谷 宝樹寺境内**

本堂前に祐天名号塔と徳本名号塔とが向あって建てられている。祐天の署名・花押は入っていないが、安永元年（一七七二）の銘がみられる。



**09 富山市婦中町萩島 路傍**

光得院から東に二百メートルほど離れた路傍に建てられている。祐天の署名・花押は入っていない。明治元年（一八六八）の造立である。



**10 射水市立町 大楽寺 絵像名号書**

祐天寺のご住職と研究室の方々とで、十年ほど前に確認されている。祐天上人の絵像に名号を書き記したもので、全国にも三幅しかみられないそうであり、その中でも最も大きく立派なものとのことである。

**13 14 高岡市博労町 極楽寺墓地 二基**

極楽寺墓地に、二基の祐天名号の墓標がみられる。一基は極楽寺三十九世・四十世の墓標で、早書き名号が刻まれている。署

名・花押は入っておらず、明治十九年

（一八八六）の銘が読み取れる。

またもう一基は一般墓標で、明治四十一年（一九〇八）に建てられている。

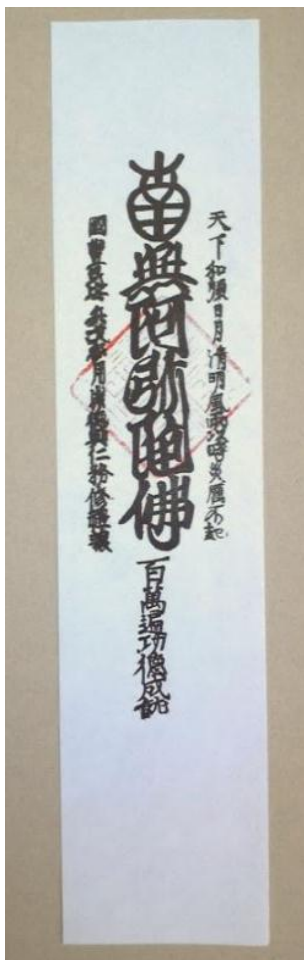


極楽寺では毎年正月に、名号を刷ったお札を檀家に配布している。現在は印刷であるが、以前に使用していた版木も残されている。これは祐天書の名号で、幕末の頃に祐天寺で配布されていたものをもとに作られたものと考えられる。



**16 小矢部市中央町 大念寺墓地**

墓地内にみられる小ぶりの一般墓標である。一般的な祐天の名号と早書き名号との中間の書体で、準早書き名号と称しておきたい。祐天の署名・花押はなく、年号もみられない。大念寺檀家で祐天名号書を所蔵されている方がおられるそうであるが、まだ確認していない。墓地のものと同じ書なのだろうか。



## 18 七尾市小島町 西光寺境内

西光寺境内の墓地入り口に、地蔵と共にコンクリートの基壇上に建てられている。本体は角柱型の凝灰岩(笏谷石)製で、台石も同じく凝灰岩である。覆い屋根があり、保存状態は非常に良好である。名号の左下に祐天の署名・花押がみられる。右側面に「享保十七<sub>壬子</sub>天」と刻まれている。祐天没十四年後の建立である。



祐天寺研究室によると二十年ほど前に調査に訪れ若山屋喜兵家(藤田姓)の石塔であることが判明したのだが、それ以上は追えなかったとのことであった。

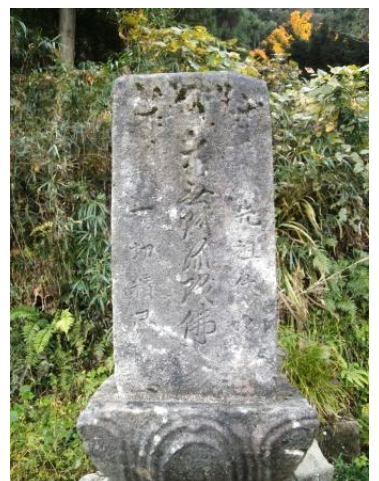
## 19 20 七尾市小島町 常通寺墓地 二基

常通寺横の墓地に建てられている。笠付角型で蓮弁が彫られた台石上に建てられている。本体は凝灰岩(笏谷石)製で、笠と台石とは砂岩製である。覆いはないが状態は比較的良好である。早書きの名号ではないが細い文字の書体である。名号の上には大きく阿弥陀の桂子「キリク」が刻まれているが、祐天の署名・花押はみられない。本体の右側面に「享保十七曆」また左側面には「壬七月吉日」と刻まれており、西光寺の祐天書名号塔の前月に建てられている。



もう一基は享保一七年の名号塔の

すぐ近くに建てられている。砂岩製の角柱型の一般墓標で、早書きの書体である。側面の文字はほとんど読みとれない。祐天寺研究室に報告したところ、「無」の文字のくずし方からみて、祐海の書の可能性が高いとのことである。祐海の早書き名号であれば、極めて作例の少ないものである。



## 21 七尾市小島町 宝幢寺 名号書

祐天寺研究室より宝幢寺が祐天名号書を所蔵されているらしいとの情報をいただき、確認に向かった。しっかりと力強く書かれた名号で、裏書きも記されている。年号は入っていないが、その書体から元禄年間に書かれたものと思われる。



## 22 羽咋市千代町 大護寺跡

千代町集落はずれの農地の一角に建てられている。花崗岩製であろうか、川石の自然石で摩滅が激しい。祐天の署名・花押は入っていないようである。右側面に「■保七 ■：■建之」とあり、当初は享保七年かと期待したのだ

が、その後判読困難であった前面左の銘文の精読「文政十二己丑十一月十一日／■■■■信士七回忌■■■」により、天保七年（一八三六）の造立と判明した。



地元の人の話では、この名号塔は以前は現在地の百メートルほど北の位置に建てられていたそうで、そのあたりは大護寺という寺院の跡と伝えられている。『羽咋市史』に本多家所蔵「西光寺奉納円光大師尊像由来記」が記載されており、その中に熱心な浄土宗徒である本多家と天台宗大護寺との関係が記されている。

千代町集落内の路傍には徳本、光導の名号塔も建てられており、この本多家の文書が、浄土宗寺院の無い所にいくつもの名号塔が建てられている謎を解く鍵になりそうである。

**25 金沢市笠舞二丁目 笠舞地藏尊**

地藏十体、文字塔二基と共に建てられている。本体は角柱型で凝灰岩（笏谷石）製、また台石は安山岩（赤戸室石）製で三段構成となっている。長期間覆いが無かったとみられ、文字がやや不鮮明である。



名号の左右に「天下和順／日月清明」が刻まれている。名号の下には祐天の署名・花押がみられ、蓮座が刻まれている。右側面に「三界萬靈有縁無縁等」左側面には「為横病横死靈魂菩提」と、また裏面には「維于天保五年六月／犀川浄土門」と刻まれている。天保の飢饉の時に犠牲者の供養のため、犀川浄土門によって建てられている。現在の浄土宗犀川組は十三ヶ寺である。

**26 金沢市中央通町 法船寺墓地**  
法船寺墓地の無縁墓標群内にみられる一般墓標。早書きの名号で、祐天書の写しかと思われる。

- 27 28 金沢市寺町三丁目 大円寺墓地 二基
- 29 32 金沢市寺町五丁目 浄安寺墓地 四基
- 33 37 金沢市寺町五丁目 極楽寺墓地 五基
- 38 金沢市野町二丁目 弘願院墓地



池田紀子氏と調査を行った。これらの寺院は寺町寺院群内にあり、浄安寺と極楽寺とは隣接している。浄土宗犀川組に属しており、先の笠舞地藏尊の祐天書名号塔の造立メンバーである。

これら十二基のうちの五基に天保十五年(一八四四)から安政六年(一八五九)までの年号がみられ、ほぼ同時期に相次いで建てられている。

祐天寺研究室によれば、祐天や祐天寺との関係は確認できないとのことである。しかし全て一般墓標ではあるが、これだけの数の祐天書体の墓標が建てられているのは何らかの関連があるのだろう。幕末の頃に大円寺から配布されていた俊国の名号札は、祐天の早書き名号を写したものとされる。また金沢市内では他に、東山二丁目の玄門寺から幕末の頃に配布されていた甚誉の印施も祐天書の写しである。

#### 39 金沢市野田町 市営野田山墓地

無縁墓標群内にみられるもので、祐天の準早書き名号を刻んだ一般墓標である。

#### 40 金沢市額谷町 共同墓地

池田氏の報告である。近年の共同墓地に建てられた一般墓標で、昭和五十年(一九七五)造立。名号の下には祐天の署名・花押が入っている。

#### 42 白山市宮保町 圓角家墓地

宮保普光院を開山した智学は圓角家の出である。圓角家の墓地には、普光院開山塔、圓角家総墓、本家墓標、分家墓標などが数十基建ち並んでいる。

その中の分家の墓所に、祐天書名号を刻んだ墓標が一基みられる。名号の下には祐天の署名・花押が



入っている。

#### 44 加賀市大聖寺鉄砲町 松縁寺墓地

笠付角柱型で、本体は凝灰岩(笏谷石)製、笠は後補のコンクリート製であろうか。また蓮弁が彫られた台石はやや荒い砂岩製である。

後年の改造とみられ、状態は比較的良好である。名号の下には蓮座が刻まれている。右側面に「享保六丑之五月兀四目／奉納西國三十三所順禮諸願成就所／加州江沼郡大聖寺住人根津九右エ門」、また左側面には「光明名号／撰化十方」と刻まれている。

松縁寺の古文書に祐天の名号書を賜ったとの記述がみられるが、その名号書は現在では残されていない。

#### 45 加賀市橋立町 共同墓地

池田氏と調査を行った。一般墓標が一基みられる。祐天の署名・花押が入っていない。

#### 50 大野市錦町 善導寺墓地

墓地の無縁墓標群内に、祐天の書体に近い名号を刻んだ一般墓標がみられる。善導寺が所蔵されている八世遠誉の書体に酷似しているように思われる。

祐天寺九世の祐東は、その以前善導寺の住職を務められていた。その関係から善導寺には祐天や



その弟子たちの名号書が多く残されている。明和四年（一七六七）の祐天五十回忌に縁故に配布された大我の利剣名号・宝珠名号なども所蔵されている。下写真。

### 51、56 大野市

大野市深井、北荒井、下黒谷などに、祐天書体の名号塔が点在している。そのいくつかに天阿(冠蒼)の署名・花押がみられる。善導寺十一世冠誉(天阿)上人の書である。



### 57 福井市足羽三丁目 法興寺墓地

笏谷石採掘場のすぐ近くの西山禅林寺派の寺院である。キノコ雲のような形の笠が載せられた石塔で、祐天の署名・花押はみられない。右側面に「願以此功德／平等施一切 同發菩提心／往生安樂國」と刻まれている。また左側面には「文久癸亥正改造」と刻まれており、文久三年（一八六三）に作り直されていることがわかる。手前に建てられている灯籠の竿に「■化甲戌七月建之」とあり、これは文化十一年（一八一四）である。祐天名号塔のオリジナルもこの時に建てられたのだろうか…。



### 58 福井市若杉一丁目 泉通寺墓地

無縁墓標群の最上部に、三面に名号を刻んだ無縁塔が建てられている。凝灰岩(笏谷石)製の立派な石塔である。正面の名号は義賢の書で、左面に祐天の名号、右面は足羽一丁目運正寺の典禅の名号である。それぞれに署名・花押が入っており、天保十四年（一八四三）に建てられている。



義賢は北陸巡錫中に福井県内で体調を崩し、天保十一年十二月六日に足羽一丁目の森厳寺(廃寺)で入寂された。泉通寺が兼務されている狐橋二丁目の浄土宗教会に、義賢の墓標が建てられている。

### 59 鯖江市上野田町 路傍

鯖江市上野田町と越前市余田町との境の、野田坂峠の路傍に建てられている。凝灰岩製の立派な石塔で、正面に大きく祐天書体の名号が、その左右に「天下和順／日月清明」が刻まれている。しかし名号の下には「行者／立信近住」の署名が入っている。この人物による写しなのであろうか。本保騒動の供養塔として建てられている。



### 60 61 越前市粟田部町 粟生寺 名号書

福井県立図書館で閲覧した『古刹の文化財 粟生寺』に記載されていた。天台真盛宗粟生寺に祐天名号書一幅が、粟生寺檀家に早書きの名号書が残さ

れている。

### 67 越前市京町 正覚寺 名号書

越前市の北村市朗氏から、正覚寺の宝物一覧の中に祐天名号書一幅が記載されているとの情報をいただいた。宝物(掛軸)の虫干しが行われる際に、祐天寺のご住職と研究室の方々、北村氏と共に訪問した。

署名・花押が入っているのだが、やや違和感を覚える書体であり、写してはなかるうか。

### 70 敦賀市阿曾 安養寺墓地

墓地内に祐天名号書を刻んだ一般墓標が一基みられる。明治三十五年(一九〇二)に建てられている。

### 71 敦賀市松島 専安寺墓地

池田氏と調査を行い、墓地内に祐天名号書を刻んだ一般墓標を一基確認した。平成四年の造立である。また祐天名号書一幅を所蔵されている。72 左写真。



### 73 敦賀市公文名 福智院境内

池田氏との調査で確認した。

墓地の入り口に建てられている。祐天の署名・花押はなく、下のほうには六地藏の種子が刻まれている。明和六年(一七六九)造立と等誉代の銘が読みとれる。



### 74 敦賀市神楽町 善妙寺 名号書 二幅

祐天寺研究室よりご教示をいただいた。一幅は一般的にみられる名号書であり、もう一幅は名号を宝塔形に多数書き並べた宝塔名号と称されるものである。

富山県祐天資料 ●名号塔 ◎名号書 ○その他

01	黒部市生地	光明寺(廃寺)	年号なし	----	◎長野市の智香寺念佛道場へ移動
02	同	光明寺跡地	明治20年	1887	●湊川口戸岩碑
03	魚津市諏訪町	大泉寺			◎布名号書
04	同	同			◎伝祐天書
05	富山市梅沢3丁目	来迎寺墓地	明治元年	1868	●一般墓標
06	同	同	明治元年	1868	●一般墓標
07	富山市本町	観音堂前	延享3年	1746	●祐天の写し 4面の内1面
08	富山市東猪谷	宝樹寺境内	安永元年	1772	●
09	富山市婦中町萩島	路傍	明治元年	1868	●
10	射水市立町	大楽寺			◎絵像名号書
11	同	同			◎祐全書
12	同	同			◎祐東書
13	高岡市博労町	同墓地	明治19年	1886	●当山三十九世、四十世墓標
14	同	同	明治41年	1908	●一般墓標
15	同	極楽寺	<現行>	----	○名号札 写し 古い版木あり
16	小矢部市中央町	大念寺墓地	年号なし	----	●一般墓標
17	小矢部市芹川	大念寺檀家			◎

石川県祐天資料 ●名号塔 ◎名号書 ○その他

18	七尾市小島町	西光寺境内	享保17年	1735	●
19	七尾市小島町	常通寺墓地	享保17年	1735	●阿弥陀種子あり
20	同	同			●祐海書? 阿弥陀三尊種子
21	七尾市小島町	宝幢寺	年号なし	----	◎
22	羽咋市千代町	大護寺跡	天保7年	1836	●
23	金沢市小立野2丁目	県立図書館			○名号札(玄門寺印施)祐天の写し
24	同	同			○名号札(大円寺印施)祐天の写し
25	金沢市笠舞2丁目	笠舞地藏尊	天保5年	1834	●天保飢餓供養塔
26	金沢市中央通町	法船寺墓地			●一般墓標 祐天の写し?
27	金沢市寺町3丁目	大円寺墓地	安政6年	1859	●一般墓標
28	同	同	嘉永7年	1854	●一般墓標
29	金沢市寺町5丁目	浄安寺墓地			●一般墓標
30	同	同	安政3年	1856	●一般墓標
31	同	同			●一般墓標
32	同	同			●一般墓標
33	金沢市寺町5丁目	極楽寺墓地	天保15年	1844	●一般墓標
34	同	同	弘化4年	1847	●一般墓標
35	同	同			●一般墓標
36	同	同			●一般墓標
37	同	同			●一般墓標
38	金沢市野町2丁目	弘願院墓地			●一般墓標
39	金沢市野田町	市営墓地			●一般墓標
40	金沢市額谷町	共同墓地	昭和50年	1975	●一般墓標
41	金沢市玉鉾2丁目	玉鉾五仏堂			◎現水洒寺 現存しない?
42	白山市宮保	圓角家墓地			●一般墓標
43	加賀市大聖寺鉄砲町	松縁寺			◎現存しない?
44	同	同	享保6年	1721	●
45	加賀市橋立町	共同墓地	年号なし	----	●一般墓標



福井県祐天資料 ●名号塔 ◎名号書 ○その他

46	大野市錦町	善導寺			◎
47	同	同			◎天阿(冠誉)書
48	同	同			◎祐東書
49	同	同			◎遠誉書
50	同	同墓地			●一般墓標 遠誉書?
51	大野市下黒谷	路傍	明治11年	1878	●方誉順良書
52	同	同	年号なし	----	●天阿(冠誉)書
53	同	同	年号なし	----	●天阿(冠誉)書
54	大野市北荒井	路傍	年号なし	----	●天阿(冠誉)書?
55	同	同			●天阿(冠誉)書?
56	大野市深井	墓地	明和2年	1765	●冠誉(天阿)書 一般墓標
57	福井市足羽3丁目	法興寺墓地	文久3年	1863	●一般墓標 文久三年改造
58	福井市若杉1丁目	泉通寺墓地	天保14年	1843	●無縁塔 3面名号の1面
59	鯖江市上野田町	路傍	寛政5年	1793	●本保騒動供養塔
60	越前市粟田部町	粟生寺			◎
61	越前市粟田部町	木津家			◎
62	同	同			◎懷中名号書
63	越前市京町2丁目	中善院			◎
64	同	同			◎
65	同	同			◎祐天の写し
66	同	同			◎祐天の写し 正徳太子絵像
67	越前市京町2丁目	正覚寺			◎祐天の写し
68	敦賀市神楽町	善妙寺			◎宝塔名号書
69	同	同			◎
70	敦賀市阿曾	安養寺墓地	明治35年	1902	●一般墓標
71	敦賀市松島	専安寺	年号なし	----	◎
72	同	同墓地	平成4年	1992	●一般墓標
73	敦賀市公文名	福智院境内	明和6年	1769	●六地藏種子あり
74	敦賀市神楽町	善妙寺			◎
75	同	同			◎宝塔名号